



12月号
平成30年12月20日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たくましい荘川っ子
・考える子
・思いやりのある子
・元気な子

夢を持ち続ける

校長 水口 悟

乃東生ず(なつかれくさ しょうず)

うつぼぐさの芽が出てくるころ。年の瀬も押し迫り忙しい時期ですが、たまには休息も（新暦では、およそ十二月二十一日～十二月二十五日ごろ 日本の七十二候を楽しむより）

◇ひとり歩きのできる子は、「夢」を持ち続ける子

今年を表す漢字は「災」でした。本校においても、6月のウィルス性胃腸炎・7月の大雨特別警報・8月の猛暑・9月の県内初のインフルエンザ感染・合同運動会の延延期。確かに「災」は少なくはありませんでした。しかし①子どもにとってどうか ②保護者にとってどうか ③先生方にとってどうか という判断基準を大切に、粘り強くその「災」に向き合ってきました。会長さんを中心とするPTAの皆さんは勿論のこと、地域を代表とするまちづくり協議会の皆さん、荘川駐在所長さんや学校医さんなど、関係の皆さんと連携し協働しながら、ともにともに乗り越えてきたように思います。結果、小中合同運動会ではピンチをチャンスに変える児童・生徒の動きが「災」を転じ、すばらしい運動会を開催してくれました。それは、荘川の子どもたちが「夢を持ち続けられるようにすること」を、私たち大人の大切な役割として、ともに進んできたからだと思います。‘郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校’であることが、嬉しい限りです。

4つのつなぐ

4・5・6月 7・8・9月 10・11・12月

○ 心をつなぐ	70%	87%	85%
○ めあてをつなぐ	89%	83%	91%
○ 考えをつなぐ	68%	70%	68%
○ ふるさとをつなぐ	92%	96%	100%

◇ひとり歩きできる子の第3ステージ

本校の「ひとり歩きのできる子」である‘主体的に食欲に自分のまわりの人・物・事につながり、自分を膨らませながら歩む姿’は、授業を見ても行事を見ても確実に個性豊かで逞しい歩へ成長しています。第3シーズン：秋（挑戦Ⅱ）に対する私たち職員の評価は上表のようになりました。○心をつなぐ：

仲間のがんばりを自分のこととして喜べる姿 ○めあてをつなぐ：苦手なことをできるようにしたいという気持ちでめあてを決める姿 ○考えをつなぐ：「同じで～」「違って～」を使って意見をつなごうとする姿 ○ふるさとをつなぐ：命や人のつながりを実感し荘川が好きという気持ちを一層強くする姿・・・自分の歩調を大切にしながらも、主体的に食欲に自分を膨らませながら歩む姿が見届けられています。

◇ひとり歩きのできる子のポジティブ・ワード

「そだね～」が、今年の最も流行した言葉に選ばれました。平昌冬季オリンピックで、史上初のメダルを獲得した北海道出身の日本代表チームが、試合中に「そだね」というときに繰り返し使った北海道弁です。チームリーダー曰く「ポジティブな言葉だけを使うのが私たちのルール」。簡単なようで難しいことを本番でやっつけているチームだからこそ、メダルを獲得するまでに至るのでしょう。さらに、「地方の言葉だけれども、誇りをもっています」と付け加えられました。

本校の子どもたちも、「そだね～」とは言いませんが、ポジティブ・ワードをたくさん使っていることに気が付きます。朝の放送であり、スピーチ集会の発表であり、授業中の聞く話す言葉であり、ふるさとのよさを体験したときの感想であり・・・。元号が変わる1年を迎えます。ポジティブ・ワードを大切に、前向きで明るい新年をともに迎えましょう！

□ 伝言板

- ・学校だよりは、まちづくり協議会ホームに掲載しています。是非ともご覧ください。
- ・体育館ステージの上に「知恩」「報徳」という立派な書が、掲げられています。どなたが書かれたものなのか、ご存じの方がみえましたら、お知らせください！